

会員訪問

おじゃま
しまーす

松隈 孝則 先生
松隈産婦人科クリニック
(小郡市)
を訪ねました

命の大切さを地域のすべての子ども達に伝え続けて

小郡市の松隈産婦人科クリニックの松隈孝則先生を訪問した。

煉瓦造りのおしゃれなクリニックに入ると、喜びに満ちた生まれたばかりの赤ちゃんを囲んでの家族写真が出迎えてくれる。家族写真は1986年(開業)以来続けられており、実に7,800人を超える。飾れなくなった写真はファイルに保管して収納し自由に閲覧できるようになっている。

先生は、唐津市浜玉町で産婦人科の三代目として誕生。久留米大学に進学し、当時の医局長の人物に憧れた事とお父様の背中を見ていた影響で産婦人科医の道を選択。診療科の特性上、大学病院等の後方病院が充実している現在地にて開業された。最初は地元に戻ることも悩んだが、お父様が背中を押してくれたとのこと。

「赤ひげ大賞」候補として推薦

2002年、小郡市が福岡県の「エイズ教育推進地域」の指定を受けた。その後3年間、教育、行政、医療を横断した委員会の活動に取り組まれた。委員会終了後、「これだけのネットワークを解散するのは残念」と継続・発展を求める声が強かったため、有志の会「おごおり思春期教育懇話会」を立ち上げた。長く続けるには、異動も転勤もない医師が適任と先生が主宰した。「当日の自由参加」を基本とし、勉強会の講師の折衝及び諸経費は先生が負担されている。

今年は「支援を要する子ども達に教える性のマナー」をテーマに勉強会を開催。77名が参加した。

この地域での医療活動が評価され、福岡県医師会から昨年の「赤ひげ大賞」の候補に推薦された。

思春期教育の取り組み

1987年から高校で性に関する講演を開始。その後、懇話会のメンバーである教員やPTA、教育委員会等に請われ、現在は小郡市、大刀洗町の全中学校やPTA等で毎年講演を行っている。

先生は「避妊教育などが性教育ではない。僕のテーマの基本は自分を大切にしろ。人はいつ死ぬかわからない。それと他の人をもっと大切にというのが僕の切り口。その中で、性やSNS、いじめ、家庭内暴力、喫煙のことについて話して

います」とのこと。また、「地域が小さいからこの中で校長や教頭などが移動しても続いている」と謙遜される。小郡市と大刀洗町の全ての子どもが先生のお話を聞いて、巣立っている。先生の役割の大きさを改めて感じた。



色鮮やかな「はがき画」

7年前、山形の友人から届いたさくらんぼ「佐藤錦」の艶と美味しさに感激して、水彩で描いたことが始まり。「はがき画は、封筒に入れて御礼に送ることもでき、空いた時間に気軽に描けるのも魅力」と。5年前には、家族の応援もあって、久留米市内ギャラリーで個展も開催。近年は友人や飲食店などに請われて描かれることも多いそうだ(19面に作品を掲載)。「はがき画」は先生のホームページで閲覧できる。

産婦人科は喜びの多い仕事

「産科はどこにも行けないし、途中で呼び戻されることも多いが、他の科と違って喜ばれることが多い仕事。我が子にも『今日はこんな嬉しい事があったよ』といつも喜びを伝えてきた」という先生。そのご子息も産婦人科医として活躍。先生が学会などの出張中は、クリニックに勤務されている。

協会については「色々と情報を頂いたり、例会などに参加して、他科の先生や先輩方のお話が聞けて勉強になる」とのこと。

インタビューの途中、お産の連絡にスタッフに指示を出される先生。改めて産婦人科の厳しさを知った。

今後も地域での活動がますます広がるのではないかと思います。インタビューを終えた。

(広報部)

「原稿」募集してます!!

【原稿 随時掲載】

テーマは自由。旅の思い出、美味しいお店の紹介。心温まる体験など。

字数：800字程度。

☎092-451-6642 ✉fukuoka-hok@doc-net.or.jp